

1. 略歴

- 1991年3月 東京大学文学部中国語中国文学専修課程卒業
1991年4月 東京大学大学院人文科学研究科修士課程中国語中国文学専攻入学
1993年3月 東京大学大学院人文科学研究科修士課程中国語中国文学専攻修了
1993年4月 東京大学大学院人文科学研究科博士課程中国語中国文学専攻進学
1993年9月 北京大学中文系留学（高級進修生として）（1994年7月まで）
1997年1月 東京大学大学院人文社会系研究科博士課程中国語中国文学専攻修了
1997年1月 博士（文学）学位取得
1997年4月 明治大学政治経済学部 専任講師
2002年4月 明治大学政治経済学部 助教授
2007年4月 明治大学政治経済学部 准教授
2010年4月 明治大学政治経済学部 教授
2013年4月 一橋大学大学院言語社会研究科 教授
2018年4月 東京大学大学院人文社会系研究科 教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

中国近現代文学

b 研究課題

(1) 中国モダニズム文学の展開

モダニズムを広義にとらえ、中国近現代文学において、西洋の文学技法を学んで中国の現実を描く文学創作がどのように展開したかを解明しようとしている。

(2) 現在の中国の知的状況

現在の中国の知識界の状況を捉え、その意味を日本に伝えようとしている。

c 概要と自己評価

(1) については、西洋的マルクス主義文芸思想を十分に吸収し、中国の現実に即した理論を構築しようとした胡風およびその周辺の文学活動を総体としてまとめるべく、一連の論文を発表している。その一部は中国において発表し、研究交流を進めている。

(2) については、中国の農村を内在的にとらえた梁鴻著『中国はどこにある』を翻訳、出版した。本書は『日本経済新聞』『朝日新聞』など全国紙の書評でも取りあげられた。

d 主要業績

(1) 論文

鈴木将久、「中華人民共和国建国前後の茅盾」、『越境する中国文学—新たな冒険を求めて』、pp.165-188、2018.2

鈴木将久、「路翎的朝鮮戦争」、『人間思想（簡体字版）』、9、pp.145-164、2018.3

鈴木将久、「타계우씨요시미의'중국문학」、『연동하는동아시아를보는눈』、pp.299-326、2018.6

鈴木将久、「胡風の日本留学体験」、『戦前期アジア留学生と明治大学』、pp.191-226、2019.3

鈴木将久、「改革開放初期中国的”五・四”想像」、『東京大学中国語中国文学研究室紀要』、第22号、pp.87-103、2019.11

鈴木将久、「中国の農村を文学で表現すること」、『研究中国』、第10号、pp.87-103、2020.4

(2) 書評

魏時煜、『胡風：詩人理想与政治風暴』、『東方』、449、pp.32-36、2018.7

山崎眞紀子、石川照子、須藤瑞代、藤井敦子、姚毅、『女性記者・竹中繁のつないだ近代中国と日本』、『週刊読書人』、6頁、2018.7.13

黒川みどり・山田智、『竹内好とその時代』、有志舎、『歴史評論』、831号、pp.97-101、2019.7

山口守、『巴金とアナキズム』、中国文庫、『週刊読書人』、5面、2019.7.19

閻連科、『黒い豚の毛、白い豚の毛』、河出書房新社、『週刊読書人』、4面、2019.10.11

『野草』百号記念号編集委員会、『中華文藝の饗宴』、研文出版、『中国研究月報』、第861号、pp.19-21、2019.11

黒川みどり・山田智、『評伝 竹内好』、有志舎、『週刊読書人』、3面、2020.3.27

(3) 学会発表

- 国際、鈴木将久、「現実主義的再定義：茅盾『夜読偶記』及其周辺」、1957 歴史実践的社會、思想、文化、生活意涵、2018.4.28
- 国際、鈴木将久、「博士生《返乡笔记》表达了什么？」、东亚青年的精神状况与情感政治、2018.8.7
- 国際、鈴木将久、「竹内好思想中的中国文学」、南京論壇、2018.11.17
- 国際、鈴木将久、「胡風如何學習魯迅」、2018 西江 Transcultural China 國際學術會議、2018.12.20
- 国際、鈴木将久、「胡風如何學習魯迅」、中国現代左翼批評理論与实践再認識、上海大学、2019.3.12
- 国際、鈴木将久、「改革開放初期中国的“五・四”想像」、長期的視点と東アジアの歴史的視点における「五・四」、東京大学、2019.5.11
- 国際、鈴木将久、「淺析瞿秋白《赤都心史》」、「中国の文学革命と19-20世紀世界」研究会、京都大学、2019.11.16
- 国内、鈴木将久、「中国文学と世界との対話——「抒情」をめぐる」、東アジアにおける世界文学の可能性、東京大学駒場キャンパス、2020.2.11

(4) 総説・総合報告

- 鈴木将久、「中国を理解するために」、『現代思想』、46-6、pp.103-109、2018.4
- 鈴木将久、「中華人民共和国の文学をどう読むか」、『文化交流研究』、32、pp.1-8、2019.3
- 鈴木将久、「グローバル化時代の日本で「五・四」を考える」、『東方』、464号、pp.2-7、2019.11
- 鈴木将久、「対歴史研究的期待」、『人間思想（簡体字版）』、第11輯、pp.202-205、2019.11
- 鈴木将久、「作為東亞人文思想節点的「革命—後革命」」、『作為東亞人文思想節点的「革命—後革命」』 pp.7-19、2020.1
- 鈴木将久、「蘭明さんから李箱へ」、『九葉読詩会』、第5号、pp.58-63、2020.3

(5) 翻訳

- 個人訳、瞿秋白、「大衆文芸の問題」、鈴木将久、『大衆文芸の問題』、『中国現代文学傑作セレクション』、勉誠出版、2018.6
- 共訳、梁鴻、「中国在梁庄」、鈴木将久、『中国はここにある』、みすず書房、2018.9

(6) 研究テーマ

- 日本学術振興会 科学研究費 基盤 (B)、鈴木将久、研究代表者、「一九八〇年代中国の思想と文化に関する研究」、2017～2019

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

- セミナー、北京大学、「茅盾与胡風」、2018.4
- セミナー、南京大学、「茅盾的現實主義」、2018.11
- セミナー、重慶大学、「胡風如何學習魯迅」、2019.3

(2) 学会

- 国内、中国社会文化学会理事